

赤ちゃんの頭蓋骨の変形を治療する「赤ちゃんの頭のかたち外来」が、国立成育医療研究センター（東京都世田谷区）に設けられた。

（加納昭彦）

特製ヘルメットで整形

赤ちゃんの頭の骨

頭蓋骨は子宮内での向きや、出産で産道を通るときに変形しやすいが、多くは生後1か月ほどで自然に左右対称になる。だが、抱っこや寝る向きがいつも同じだと、向き癖で頭の重さがかかった例が

平らになり、変形が固定化してしまつてことがある。後頭部の左右どちらかだけ平らなものを斜頭、後頭部全体が平らだと短頭と呼ばれる。こうした頭蓋骨の変形は脳などの発達には影響しないとされるが、同センター感覚器・形態外科部長の金子剛さん（形成外科）は「いじめや劣等感の原因になることもある。治せるなら治してあげたい」と話す。

赤ちゃんの頭の変形が注目されたのは、1990年代に米国でうつぶせ寝による乳児突然死症候群を防ごうと、あ

おむけ寝を奨励する動きが起きたのがきっかけだ。それ以降、欧米で増えたとされる。日本でも近年、海外の情報などを基に治療を希望する親が、脳神経外科や形成外科を受診するケースが増えたという。同センターは2001年11月、専門外来を始めた。

赤ちゃんを抱っこする向きを変えることや、あおむけになつておなかに赤ちゃんを腹ばいにのせる「タミータイム」や背中をなでる「タッチケア」で緊張を和らげ首の筋力の発達を促す指導を行う。

これだけで難しい場合や変

形が強い場合は、特製のヘルメットを用いる。頭の形をレーザーの測定機器で測り、データを米国の義肢装具会社に送る。約2週間、個々に合ったヘルメットができあがる。樹脂製で約200gと軽い。頭の平らな部分には隙間が空き、骨の成長を誘導する。

生後1～6か月が対象

は数か月で終わる。「外来」は生後1か月から6か月が対象。それ以降では頭蓋骨が硬くなり、治すのが難しい。これまでに約60人が受診し、30個のヘルメットを作製した。個人差はあるが、ほぼ全員の頭の変形が改善したという。

金子さんは「頭蓋骨の継ぎ目が早く閉じて手術が必要となるケース（頭蓋縫合早期癒合症）の、早期発見にもつながる」と話す。

治療の一般的な費用は、現在は研究として行つており、ヘルメット代10万円のほか自費診療の診察代として2万～3万円かかる。受診には、かかりつけ医から直接、同センター医療連携室への連絡が必要だ。

赤ちゃんの頭のかたち外来

胎児期や生後の外圧で柔らかい頭蓋骨が変形する斜頭や短頭の治療の専門外来を、国立成育医療研究センターが始めた。形状を誘導するヘルメットを作るのが柱。頭の変形があると、めがねや帽子を使いにくいうえ、そのまま大人になると劣等感をもつケースもある。我が子の頭の形をよくみてみよう

斜頭、短頭の例



後頭部が平らになっている
耳が左右に傾いている
頭の側面が隆起している

斜頭、短頭になるメカニズム



治療法

1 向き癖を直す



おもちゃをあちこちに配置する
だっこする向きを変える
授乳する手を変える
ベッドの向きを変える



！
いったん平らになると、向き癖が固定化

2 首の筋力の発達を促進

タミータイム
親があおむけになり、おなかの上に赤ちゃんを腹ばいに乗せる
・1日5分、生後6か月まで



赤ちゃんの緊張を和らげる

タッチケア
時計回りにゆっくり背中全体をなでる



3 形状誘導



ヘルメットを作製する
・ほぼ1日中着用
・症状により数か月かかる



ヘルメットの役割
（上から見ての図）
成長

作図デザイン 藤三郎製代子

読者 2012-5-31